



戸塚教会だより

2025年 8月号 No.242 発行：カトリック戸塚教会

皆が集い安らげる教会

《2025年度活動方針》

主の祈り

主任司祭 田丸 篤

イエス様は弟子たちが「わたしたちにも祈りを教えてください」と願った時、「祈るときにはこう言いなさい」と言われ、祈るとき最初の言葉として「父よ」という言葉を示されました。祈りとはすべて天の父に向けられて初めて真の祈りになります。イエス様御自身神の子でありながら、朝早くまだ暗いうちに起き、人里離れた所で祈っておられたことが聖書の中に度々示されています。イエス様にとって祈りとは、御自分が愛する御父と何でもお話される、その深い交わりと一致を意味していたでしょう。そしてイエス様にとって力の源は、この祈りの中での御父との深い交わりと一致でした。イエス様御自身、御自分の父に向かって「父よ」といつも呼びかけておられました。イエス様は神の子としてこの世に遣わされ、たくさんのお話を伝えてくださいました。そのイエス様の心からいつも離れなかったのは、御自分の父、天の父のことでした。だからイエス様の話は自分のことを話すのではなく、天の父がいてくださること、そしてその天の父がどのような心の方なのか、そのことを私たちにお伝えになられたのです。その天の父の名が人々から崇められるようになること、それがイエス様の願いです。

「御国が来ますように」とは、天の父の望まれる国がこの世に実現していくことを願うことです。皆が天の父の大きな力の中で生き、慈しみと愛が生きるすべての者にしみ通って、それに逆らうものが無くなってしまふように。それをひたすら祈ること。

「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください」。私たちに日ごとの糧が必要なことをイエス様は御存知でした。生きるために必要な糧が、人々のうちに十分に行きわたりますように。この祈りがどれほど大事か、イエス様の祈りから抜け落ちることはありませんでした。「わたしたちの罪をゆるしてください。わたしたちも自分に負い目のある人を皆ゆるします」。私たちは気がついていないかもしれませんが、ゆるしはいつも父である神様からのゆるしが先にあります。そして父である神様の私たちへの望みは、その神様からの私たちへのゆるしを私たちが知って、私たちも互いの負い目をゆるすようになっていくことです。イエス様が教えてくださいました祈りは「わたしたちを誘惑に遭わせないでください」で結ばれます。この誘惑とはどのようなものでしょうか。それは私たちの心から天の父の存在を取り除き、神不在の世界を作ろうとする誘惑です。私たちの心から慈しみの心を取り除き、互いが対立し、また一人ひとりが私利私欲で生きる世界になるように導きます。私たちは天の父が慈しみをもって私たちのために働いてくださっていることにいつも心を向けて歩みたいのです。私たちが普段一番よく唱えている主の祈り。その一つひとつの言葉に込められた意味を深く心に留めて、それを生きることができるよう祈っていきたいです。



★★ 信徒の声 ★★

シスターM「沖縄・伊江島でのミッション」報告

——第3回「原宿のシスターのお話し会」(6月19日・FMM原宿修道院)——

F.N

今回の講師は、長年にわたり沖縄・伊江島、フィリピン、札幌などで宣教活動に携わってこられたシスターM。特に伊江島での体験を中心に、「聴くことから始まるミッション」について語られました。

伊江島は沖縄本島北部の本部港からフェリーで約30分。周囲約22km、人口約4,500人の小さな島で、平均気温が24度と温暖な気候のもと、農業や畜産、漁業が営まれています。島らっきょう、花、さとうきび、小麦・大麦、伊江牛などが有名です。

しかし、戦争により、畑も家も失われ、焼け野原となった歴史があります。伊江島には、戦時中に島民により作られた滑走路が三本あり、かつて特攻隊の出撃地でもありました。1945年4月16日～22日(6日戦争)の米軍上陸では、住民の半数が命を落とすという悲劇が起きました。ガマ(鍾乳洞のこと。沖縄戦では砲撃から逃れる為に、住民や日本兵がガマを天然の地下壕となった。)への避難、中でも22日に起きた日本軍による集団自決などの話には、会場が静まり返りました。6月23日は「沖縄慰霊の日」、これを知らない事は差別とも言えると言及されました。

シスターMは1980～81年、そして2012～17年の二度にわたり伊江島で活動。島の厳しい現実と向き合いながら、「平和学習」「基地問題」「戦争の記憶」といったテーマでミッションを行いました。伊江島には巡回教会があり、月に一度ミサが行われ

ますが、普段は名護市まで出てミサに与るという状況で、伊江島は経済的にも困難な現実が続いています。

「伊江島で暮らす中で、日本人として申し訳ないという思いに苛まされた」とシスターMは語ります。聖書から「哀れみではなく慈しみを」という言葉を引用し、「島には、あるもので足りるという生き方がある」と紹介しました。伊江島での生活を通して、彼女はミッションの本質を次のように再確認したといます。それは、「神から遣わされた場所で、まず聴くこと」「共に生きること」「相手の中に、すでにある福音を見出すこと」です。

またシスターは、沖縄戦や基地問題で非暴力の抵抗運動を続けた平和運動家・阿波根昌鴻(あはごんしょうこう)氏の「過去を忘れる者は、同じことを繰り返す」という言葉も紹介。さらに、終戦後の1948年8月6日に伊江島で起きた不発弾処理中の事故—107名の死者と73名の負傷者を出した悲劇—にも触れ、こうした事実があまり知られていない現状に警鐘を鳴らしました。

講話を通じて強調されたのは、何よりもまず「聴くこと」の大切さ。神様から遣わされた土地の声を聴き、その土地の痛みを知ることから、真の共生が始まるのだというメッセージが心に深く響きました。会場には静かな感動が広がり、参加者一人ひとりが平和への祈りを新たにしたりとひとときとなりました。





第5地区一粒会祈りのリレー（8月：原宿教会）

お一人おひとりが、ご自身の言葉・場所・時間で、司祭召命のためにお祈りください。

福祉部の目指すところ

無関心を遠ざけ、
貧しい人や弱い人を支え、
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、
わたしたちの役割を示してください。

(司教協議会認定「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」より)

教会だより 10月号から7項目からなるラウダート・シ ゴールズ (LSGs) を毎月1項目ずつ掲載します。 LSGs は、ともに暮らす家を大切にするために私たち一人ひとりが今からできる行動の指針であり、また既に行なっている日々の生活の中での行いとも繋がっています。』



1) 福島やさい畑販売

日時：8月24日10時～12時

場所：教会前庭。(荒天の場合は地下駐車場) 新鮮な夏野菜、桃にご期待ください。(LSG s-7)

2) 聴く会

題：『福島農業の今』

講師：遠藤琢磨氏 NPO 法人福島やさい畑 理事長

日時：8月31日(ミサ後) 11時半～12時半

場所：戸塚教会聖堂 福島農業、原発、風評被害の現状などを話していただく予定です。(LSG s-3,7)

3) 中和田教会講演会(戸塚教会福祉部と共催)

題：『より善い最期を迎えるために -- 介護する側、される側のケアについて』

講師：小川竹俊先生 めぐみ在宅クリニック(瀬谷区)

日時：9月21日10時半～11時半(ミサは9時からです)

場所：中和田教会聖堂 〒245-0012 横浜市泉区中田北1-9-1(地下鉄立場駅から徒歩約10分です)
(LSG s-6)

4) 関内支援グループへの米の寄付

急なお願いにもかかわらず多くの信徒の皆様のご協力を頂きました。感謝いたします。(LSG s-2、7)

5) 募集中のボランティア(福祉部員に相談して下さい。)

- * 福島やさい販売支援グループ(緊急) --- 2ヶ月に1度の福島野菜の販売を手伝います。
- * ファミリーホーム等支援ボランティア --- 地域の児童養護施設2ヶ所に福島やさいなどの支援をしています。
- * ステラマリス毛糸の帽子サークル --- 原則、毎月第4水曜日 13時～15時 2階集会室 --- 編み物初心者、大歓迎です。折り紙もやっています。
- * 福祉部運営チームメンバー --- 福祉活動の企画、運営の働きに参加してください。

教会委員会からのお知らせ

教会委員会の議事録から

※委員会議事録のうち、信徒の皆さんにお伝えしておきたいことがらを抜粋しています。議事録の詳細は事務室に備えているファイルをご参照ください。なお、項番は議事録原本のものです。

【日時】2025年7月12日10:00~11:00

【場所】戸塚教会2階会議室

【開催の挨拶（主任司祭）】

日本聖書協会が戸塚教会に来てお話して下さる日が、9月28日(日)10時半のミサ後に決定。ミサ後の「お知らせ」の時間に5分~10分程でお話していただく。

【議事】

1. 協議事項

(1)ミサ行事日程表の確認（広報）

8/15(金)聖母マリアの被昇天 ミサ後に納涼祭
9/13(土)、14(日) 敬老のお祝いのごミサを行う。
別紙「2025年度ミサ行事日程表」を確認

(2)「福島やさいばたけ」関連

- ・販売：8月24日
- ・聴く会：8月31日「福島やさい畑」理事長、遠藤琢也氏による講演

(3) 外灯のLED化工事について（管財）

本年度実施予定の外灯のLED化工事を推進したいので、審査、承認をいただきたい。
蛍光灯は2027年に生産終了になるので、混み合う前に対応したいと考えている。
→了承。

(4)教会学校の時間帯変更について（6月からの継続審議）

現在の時間9:15~10:00（10:00からは2階会議室のドアを開けて、コピー機使用やミサ準備のために入りやすいようにしている）9月からの時間は9:00~10:00とする。→了承

2. 報告事項

(2)教会委員長

7/6(日)ミサ後に卓球大会を開催。20名弱が参加。最初は戸惑った方もおられたが、回数を重ねるうちにラリーを楽しむ様子が見られた。お茶とお菓子を準備（行事親睦）。

今後、毎月第1日曜日ミサ後は卓球以外にも他の競技（ポッチャなど?）、ボードゲーム、将棋など、聖堂を活用してレクリエーションを実施し信徒同士の交流を深める時間としたい。

(3)財務部

①6/28,29で行った「聖ペトロ使徒座への献金」は

76,000円、横浜司教区へ振込完了。

(4)総務部

①防犯カメラをロビーの書棚の上に設置し、教会のパソコンで確認できるように設定した。1か月運用して問題点を把握し、今後の運用について検討する。「防犯カメラ稼働中」プレートを貼付予定。

(5)管財部

①エレベータの定期点検(6月)にて、バッテリー3点（定電圧電源、停電灯バッテリー、インターフォンバッテリー）の交換が必要になり、業者に交換依頼。

(6)典礼部

①平和旬間8/6(水)~8/15(金)の祈りのリレーのエントリーを7/12(土)より開始。

原宿教会、聖母の修道院と連携

②8/15(金) 聖母マリアの被昇天の祭日のミサは、戸塚教会にて、10:30より行う。

ミサ後に納涼祭を開催。

③100インチモニタとして、シャオミの100インチテレビを299,880円(税込)で購入

④9/14(土)、9/15(日) 敬老のお祝いミサを実施。

今年の該当者は220名を超える人数。

8月中旬には案内を送付予定。

お祝いの品は、昨年と同様、マリアコーヒーとマリア紅茶のセット。

⑤先日より当面の間、主日のミサの時だけ、聖堂入口の聖水を復活させた。

衛生面の懸念等を含めて、意見を伺いながら、置いたままにするか、またなくすかを検討していく。

(7)教学部

①図書冊数 539冊（2025.6.30現在：内新入庫1冊）

(10)福祉部

①関内駅周辺のホームレスの方々支援について

関内駅周辺のホームレスの方々に毎週日曜日夕方におにぎり等を配布しているが昨今の米価格高騰の影響により、米の寄付が減っているため、米一合分の寄付を7月19日(土)、20日(日)、26日(土)、27日(日)のミサ前後に募りたい。福祉部掲示板及び7月12日(土)、13日(日)にチラシを配布し周知する。

【次回 委員会の日程】 2025年9月13日 10時~

教会委員会からのお願い

〈世界難民移住移動者の日（献金）・財務部〉

「世界難民移住移動者の日」は、1970年に聖パウロ6世教皇が教皇庁移住・観光者司牧委員会（後に移住・移動者司牧評議会となり、現在は総合人間開発省に統合）を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が、国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『ともに生きる』決意を新たにする日」として設立されました。

「世界難民移住移動者の日」には、主に滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。

戸塚教会では9月27日、28日に献金を行います。皆様のお祈りとご協力をよろしくお願いいたします。